

連携医院のご紹介

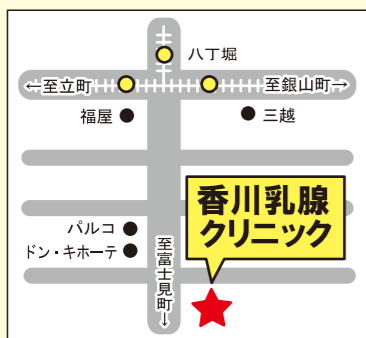
今回は「患者さんの話をしっかりと聞くこと」を何よりも大切に取り組んでおられます香川乳腺クリニック 香川直樹先生です。



香川院長

香川乳腺クリニック

〒730-0029
広島市中区三川町1-20
ピンクビル39ビル6F
電話/082-240-1181
院長/香川 直樹
診療内容/乳腺外科



○いつ頃開業されましたか。
平成20年の6月に開業しました。

○開業されてから今までのことを教えてください。

乳がんの早期発見と標準治療がしっかりとできるような体制を整えることに力を入れて参りました。特に、乳がんの早期発見については、マンモグラフィの精度管理や読影力の維持・向上に努めております。

○診療で大切にしていることは何ですか。

患者さんが自分にとって良いと思われる治療法を選択できるようにそのサポートをするという姿勢を何よりも大切にしております。そのために、診療を原則、予約制にし、わかりやすい資料を準備しておくことで、患者さんと十分に話ができる時間を確保するようにしております。また、看護師も医師の説明の補足ができるよう、定期的に県立広島病院などで研修を受けております。

○開業医のやりがいについて教えてください。

勤務医時代は急性期病院に勤め

ていたこともあり、患者さんとは一時的な関わりが中心でしたが、開業してからは患者さんを長期的に診ることができ、患者さんの抱える不安や悩みをより引き出せるようになったと思います。また、クリニックが入っている建物内の他施設と連携し、治療が上手くいっている方のお祝い会やレクリエーションなど、様々な取り組みを企画・実施しております。これも、大きなやりがいの1つとなっております。



香川乳腺クリニック外観

【取材後記】

患者さんの治療の先にある生活も支えていきたいという強い思いに溢れておられる先生でした。

県立広島病院からのお知らせ

がん医療従事者研修会

開催日 平成25年 **9月26日**(木)
時間 19:00~20:30
場所 中央棟2階 講堂
テーマ がん地域連携バスの現状と課題について
講師 消化器・乳腺・移植外科主任部長/漆原 貴 ほか
対象 医療従事者 及び その関係者
問合せ先 総務課管理係 (担当:永岡)
TEL:082-254-1818
内線 (4273)

第8回 地域健康フォーラム

開催日 平成25年 **10月5日**(土)
時間 13:30~15:30 (開場 13:00~)
場所 中央棟2階 講堂
テーマ 『すこやかな老後を迎えるために』
参加費 無料 **対象** 一般の方
講演 脳神経内科主任部長/時信 弘
歯科口腔外科部長/延原 浩
しげのぶ整形外科リハビリクリニック/院長 重信 浩一
主催 県立広島病院・広島市南区医師会・広島市南区地域保健対策協議会
後援 広島市南保健センター
問合せ先 地域連携センター (082)252-6228 (直通)

外来診療のご案内
診療受付時間 午前8時30分~午前11時00分
※午後の診療は科によって異なります。

休診日 土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始(12月29日~1月3日)

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費の他2,620円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ち下さい。
※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承下さい。

KBネット
現在の参加医療機関は
109 機関です。
(8月20日現在)
問合せ先 地域連携センター
電話(082)252-6228(直通)

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様にあわれ信頼される病院をめざします

祝

100 医療機関

KBネット



KBネットとは

患者さんのかかりつけ医の先生方に、県病院での治療や検査の内容をパソコンで見ってもらうことで、県病院の情報を活かした治療を行っていただける仕組みです。こちらの医療機関の先生方が、KBネットに参加されています。

KBネット接続医療機関一覧

(平成25年8月20日時点)

南区	中区	西区	安佐南区
もり小児科	香川乳腺クリニック	山本内科循環器科	よしみつこともクリニック
牛尾内科医院	大橋内科医院	かわむら内科クリニック	耳鼻咽喉科くにもと医院
藤井循環器内科	折口内科医院	川口クリニック	
半田耳鼻咽喉科	藤井病院	横川クリニック	廿日市市
古川医院	妹尾内科	広島大腸肛門クリニック	中丸クリニック
新甲さなえ女性クリニック	サザンクリニック整形外科・内科	えもり内科クリニック	府中町
福原整形外科医院	尾鍋外科病院	落久保外科循環器クリニック	府中みくらり病院
古谷皮ふ科クリニック	さだもりレディースクリニック		江田島市
まへだ内科呼吸器科	はしもと胃腸科内科		幸田医院
田村医院	いのうえ内科神経クリニック		梶川医院
中谷外科医院	女性クリニックラポール		海田町
宏精クリニック	小網町ペインクリニック		秋本クリニック
メンタルクリニックラッコリン			中川外科胃腸科
はたの皮膚科クリニック			山村眼科
野島内科医院			安佐北区
宇品神田クリニック			新谷整形外科医院
佐々木内科胃腸科			高陽耳鼻咽喉科
こうの子供クリニック			中西内科
には耳鼻咽喉科アレルギー科クリニック			馬場クリニック
広島みなとクリニック			中岡内科
みなもと眼科			二宮内科
吉田眼科医院			やまさき整形外科
多田耳鼻咽喉科クリニック			井口医院
内科佐藤クリニック			
星野外科クリニック			
			東広島市
			藤原内科医院
			よこやま産婦人科
			悠心療内科
			西条とぎわクリニック
			松田医院
			友安クリニック
			松林レディースクリニック



ドクター紹介します!!

小児科主任部長 神野 和彦

県立広島病院小児科に赴任して

広島大学病院で研修し、30歳で大学病院に戻り、38歳から15年間鉄道病院に勤めました。医学部卒後30年目の春に県立広島病院に赴任することになり、もう4か月が経ちました。初心者マークの私が困っていたら、同期の小児腎臓科主任部長の大田先生が助けてくれたより早く仕事に慣れることができました。他のスタッフの先生方やメディカルの方々も忙しい中、いろいろと教えてくださいます。



小児科関連スタッフです

鉄道病院から当院に転院してきた糖尿病や内分泌疾患の子どもたちの当院に対する声を2、3紹介したいと思います。「広すぎてどこに行ったらいいか…」、「2階と1階に受付があって結構待つような…」と大病院は待ち時間がやはり長いですね。「先生、忙しそうじゃね。もう慣れた?」と気づかってくれる優しい患者さんもいてホッとします。



小児病棟の壁のイラストに心が和みます

外来は診察室が6室ありますが、午後は新生児科、小児外科の診察もありますので、診察室はいつもいっぱいです。夕方に学校から帰ってからしか病院に来れない慢性疾患の子どもたちの診察を遅くまで行っています。働いて初めて知った当院外来の状況でした。



外来診察室前の装飾

鉄道病院に勤務していた頃の当院小児科の印象は、前主任部長の坂野先生が腎臓疾患、膠原病などの自己免疫疾患の子どもたちの診療を積極的にされていたので、「腎・免疫」の子どもは県病院に紹介という感じでした。免疫を抑制する治療をしている子どもたちがたくさん入院しているので、一般の感染症は紹介しても、なかなか受けてくれないだろうと思っていました。しかし、中に入ってみると、成育医療センターということで東7病棟は小児のみの病棟になり、感染症(+)の病室群とそうでない病室群を分離し、かつ看護師も別チームの看護体制になっていました。内情をご存じない方もおられると思いますが、公表させていた

この夏は、30歳の時から始めた24年目の小児糖尿病サマーキャンプに行ってきました。



神野主任部長

だきました。入院が必要な感染症の子どもたちもベッドの状況にもよりますが、普通に入院できる環境です。感染症や「腎・免疫」疾患以外にも、代謝疾患、神経疾患、糖尿病・内分泌疾患なども精力的に診療していきますのでよろしくお願いいたします。

外科医の独り言 no.24

— 先天性心臓弁膜症 —

先日、大学卒業後30周年を祝う同窓会の案内が来ました。研修医から始まった外科医生活が今年で30年経過したということですが、まだまだ通過点ということもあり、あまり感慨はありません。その間、多くの患者さんの手術にかかわってきました。一昨年は300件くらい、昨年は副院長になったせいか少し減って200件位の手術に入ったようですが、30年間で何件の手術に入ったのかその正確な数は残念ながら把握していません。外科医となって30年間あまり誇れるものはありませんが、唯一自慢できるのは病欠「ゼロ」だったことでしょうか。あの国民栄誉賞を受賞された衣笠さんが18年間かけて達成された2215試合連続出場を凌駕する?ものです。ただし寝坊で遅刻したことが数回ありますので連続インング出場ではないかもしれません。もちろん病気を全くしなかったわけではありませんが、その都度歯を食いしばって病院に通院ではなく出勤しました。いずれにしてもこの30年間大病をしなかったことに関しては丈夫に生んで育ててくれた両親に感謝しなければなりません。しかし、幼少時の私には先天性心臓弁膜症という病名が付いていたようです。顔色が悪く聴診器で聞いた心臓の音にかなりの雑音が聞こえ、精密検査を勧められたそうです。精密検査を受けたかどうかはわかりませんが、50年以上前の話ですから、検査していたとしても大した検査ではなかったと思います。当時医者は父親に「運動は絶対ダメ、それでもこの子は成人式を迎えることはできないでしょう」と言ったそうです。ただ本人はそんな話を聞かされていないので野や山を一日中奔放に駆け回り、小中学校では野球部、高校、大学では

サッカー一部に入って“激しい運動”を続けました。その間両親はびくびくしながら見守ってくれていたようです。なぜ運動はダメ!と忠告してくれなかったのでしょうか。医者信用していなかったのでしょうか、それとも何かあった時にはそれはそれで運命、と諦めていたのでしょうか。

私が成人式を迎えた時初めて、父親からこのことを聞かされました。「なぜ運動はダメと言わなかったのか?」と質問したところ、その答えは「楽しそうに遊んでいたから」とだけ言ってそれ以降この話が話題になることはありませんでした。そして医学部5年生の時、臨床実習が始まるということで聴診器を購入し、早速“心臓の雑音”というものを聞いてみました。しかし、医学部5年生といってもほぼ素人、今までに聴診器で正常の心臓の音、まして雑音など聞いたこともなかったため、雑音があるのかどうかさっぱりわかりませんでした。それから現在まで聴診器を自分の胸に当てることはありませんでした。というか、その心臓弁膜症のことをすっかり忘れていたのです。

同窓会の案内が来て、一人昔を懐かしんでいたところ急に心臓弁膜症のことを思い出したのです。そして今、そっと自分の胸に聴診器を当てて心臓の音を聞いたところ、あったはずの“雑音”は聞こえませんでした。医者の誤診なのか自然に治癒したのか、今となっては定かではありませんが、運動を禁止しなかった両親にはまたまた感謝です。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長) 板本敏行(いたもと としゆき)

病棟編

看護部だより

西6病棟

西6病棟は主に肝炎・胆石・膵炎・腫瘍・胃・大腸などの消化器疾患の病棟です。治療はインターフェロンなどの肝炎治療・炎症性腸疾患・胆石・すい臓の炎症の治療・食道・胃・腸の内視鏡での治療や検査を行う病棟です。また胃や腸の突然の出血で処置を受けることが必要な方を含めて救急の患者も積極的に受け入れています。4月からは消化器外科の病床も加わって、経験豊富な内科・外科の医師が約20名と看護師29名が働いています。入院患者さんは、市内の他、島しょ

部など県内の広域からこられます。年齢も90歳以上から働き盛りの方々までと幅があり、一ヶ月で100名以上の方が入退院される中で、短期間の入院生活を少しでも快適で、安全な療養生活ができるように、院内の各部署と連携を図り、チーム医療を実践しています。外科の病床が加わったことにより、内科で胆石と診断され入院し、その後、手術が必要となった場合は病棟を変わらずに、外科で手術を受けていただきます。医療者と患者さんとの関係がより密になり、患者さんがより安心して治療に臨めるように頑張っています。



西6ナースステーションにて